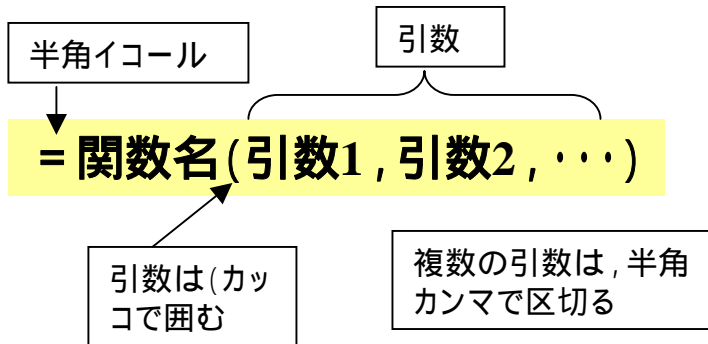


関数の書式

EXCEL関数の書式



エラー値	内容
# DIV/!	ゼロによる除算が行なわれた
# N/A	参照する値が存在しない
# NAME?	関数名やセル範囲名の誤り
# NULL!	範囲・参照が正しくない
# NUM!	EXCELで処理できない大きい又は小さい数値
# REF!	参照が無効
# VALUE!	引数の型が異なる
#####	数値が列幅に収まらない

引数の型

引数	解説
数値	数値データ
文字列	任意の文字、数字、記号の集まりを「"」で囲んだもの
論理値	TRUE、FALSE
配列	複数の値のセット。「{ }」で囲む
エラー値	# DIV/0!、# N/A、# NAME?、# NUM!、# REF!、# VALUE!、#####
セル参照	単一のセルや、セル範囲

引数を必要としない関数

関数の後ろに「()」カッコのみつけます。
 PI()、RAND()、NOW()、TODAY()、
 FALSE()、TRUE()、NA()

演算子

演算子は全て半角で入力します。

算術演算子

演算子	意味	例
+	足し算	$= 2 + 3$
-	引き算 負の数	$= 3 - 2$ $- 2$
*	掛け算	$= 2 * 3$
/	割り算	$= 2 / 3$
%	パーセンテージ	$= 23\%$
^	べき乗	$= 2^3$

比較演算子

演算子	意味	例
=	左辺と右辺が等しい	$A1 = B1$
>	左辺が右辺より大きい	$A1 > B1$
<	左辺が右辺より小さい	$A1 < B1$
> =	左辺が右辺以上	$A1 > = B1$
< =	左辺が右辺以下	$A1 < = B1$
< >	左辺と右辺が等しくない	$A1 < > B1$

文字列演算子

文字列演算子は、「&(アンパサンド)」の結合のみ。

数式内で文字列を入力するときは「青」のように「"」で囲みます。

文字列に数値データを結合できます。

参照演算子

演算子	意味	例
:	セル範囲	B2: E8
;	セル範囲の結合	B2: D4, D6: E8
スペース	重複するセル範囲	B2: D6 C4: E8

演算子の優先順位

順位	演算子	説明
1	, (カンマ)、 : (コロン)、 スペース	参照演算子
2	- (マイナス)	負の数
3	%	パーセント
4	^	べき乗
5	*, /	乗算、除算
6	+, -	加算、減算
7	&	文字列演算子
8	=, <, >, <=, >=, <>	比較演算子

同等の演算子を使う場合は左から順に計算されます。()で囲むと順位を変更できます。

よく使う関数一覧

2年1組									COUNTA関数		SUMIF関数 / 生徒数	
出席番号	氏名	性別	英語	数学	国語	合計	順位	偏差値	生徒数	平均点		
	得点		100	100	100	300			全体	10	169.46	
									男	5	179.6	
									女	5	191.2	
1	青木 朝子	女	88	85	80	253	2	60.973	得点分布	人数		
2	青山 隆	男	79	74	74	227	4	57.558	0	0		
3	赤木 恵	女	72	78	65	215	5	55.982	50	0		
4	飯田 洋介	男	32	40	35	107	8	41.797	100	2		
5	角田 幸男	男	70	66	78	214	6	55.851	150	1		
6	滝口 薫	女	88	78	84	250	3	60.579	200	1		
7	平野 克	男	92	86	86	264	1	62.418	250	4		
8	三田 良子	女	14	15	23	52	10	34.573	300	2		
9	山本 雄三	男	12	42	32	86	9	39.039				
10	横田 真奈美	女	50	70	66	186	7	52.173				
	平均点		55.182	58.545	57.545	169.46						
	平均点(四捨五入)		55.2	58.5	57.5	169.5						
	標準偏差値		30.732	23.368	23.471	76.135						
	1位の点数		92	86	86	264						
	2位の点数		88	85	84	253						
	中間点数		71	72	70	214.5						
	最下位の点数		12	15	23	52						

RANK関数

SUM関数

COUNTA関数

SUMIF関数 / 生徒数

AVERAGE関数

ROUND関数

STDEVP関数

MAX関数

LARGE関数

MEDIAN関数

MIN関数

COUNTIF関数

FREQUENCY関数

計算の関数(数学 / 三角関数) SUM関数他

関数	機能	例
SUM	セル範囲に含まれる全ての数値を合計する	=SUM(D6:F6)
ROUND	数値を四捨五入して、指定された桁数にする	=ROUND(G6)
SUMIF	指定された検索条件に一致するセルの値を合計する	=SUMIF(C6:C15,"男",G6:G15)

注:この他多数の数学・三角関数があります。

SUM関数(合計)

ここをクリック

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		2年1組						
2								
3	出席番号	氏名	性別	英語	数学	国語	合計	順
4		得点						
5				100	100	100	300	
6	1	青木 朝子	女	88	85	80	=sum(d6:f6)	
7	2	青山 隆	男	79	74	74	227	

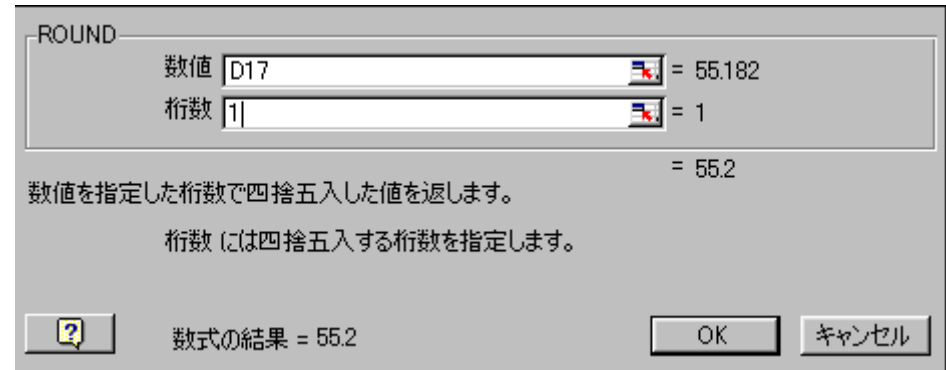
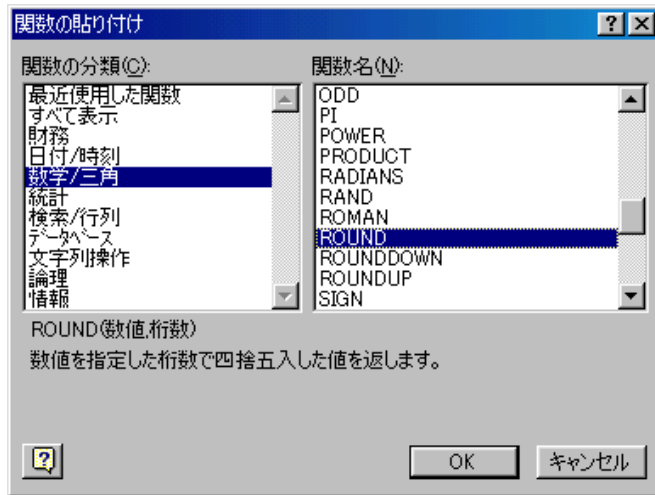
合計を表示させたいセルをクリックし左ボタンを押したまま範囲を選択し放す。次に マークをクリックすると、セルと数式バーにSUM関数の数式が表示され、合計値がセルに表示されます。

G6からD6を選択

数学関数(四捨五入、検索条件付き合計)

ROUND関数(四捨五入)

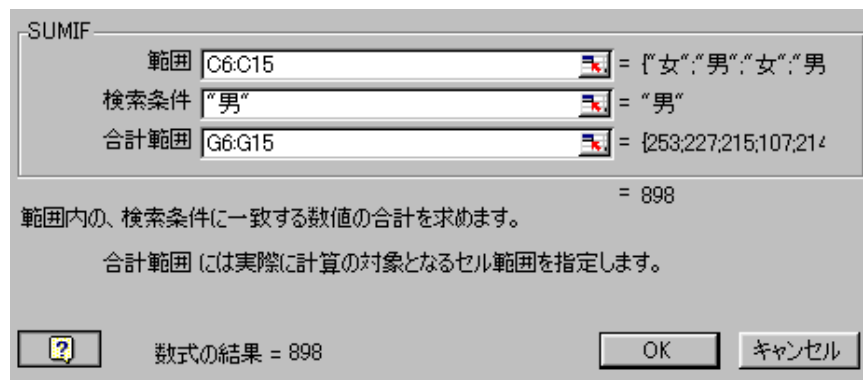
「挿入」「関数」「数学/三角」「ROUND」セル番地、桁数を入力



= ROUND(D17,1)

SUMIF関数(検索条件に合致する値の合計)

「挿入」「関数」「数学/三角」「SUMIF」検索セル範囲、検索条件、合計セル範囲を入力します。検索条件に合致した値の合計を選択したセルに表示します。



= SUMIF(C6:C15,"男",G6:G15)

「ツール」「ウィザード」「条件付き合計式」で複数条件を指定することができる。これを「配列数式」という。直接変更する場合は、Ctrl+Shift+Enterキーを押して確定する。

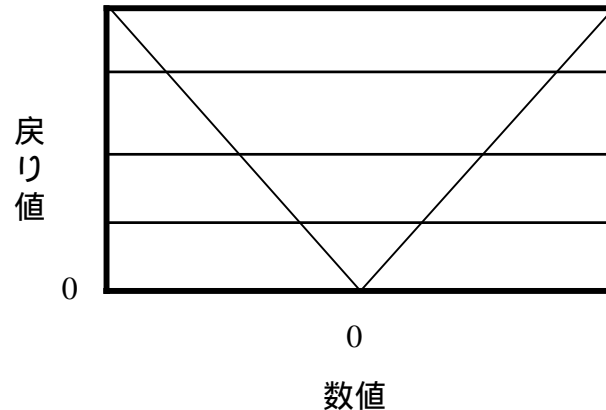
数学関数 (絶対値、正負、割り算の商と余り)

ABS関数 (数値の絶対値を求める)

数値から「+」「-」の符号を除いた値を求めるのに使います。

「挿入」「関数」「数学/三角」「ABS」

= ABS (数値)



SIGN関数 (数値の正負を調べる)

戻り値は、引数「数値」が正の場合は「1」、「0」の場合は「0」、負の場合は「-1」となります。

「挿入」「関数」「数学/三角」「SIGN」

= SIGN (数値)

QUOTIENT関数 (割り算の商の余りを切り捨てた、商の整数部を求める)

分子には割られる数、分母には割る数を入力

「挿入」「関数」「数学/三角」「QUOTIENT」

= QUOTIENT (分子、分母)

MOD関数 (割り算の商の余りを求める)

数値には割り算の分子となる数値、序数には分母となる数値を指定します。

「挿入」「関数」「数学/三角」「MOD」

= MOD (数値、序数)

統計関数 (平均値)

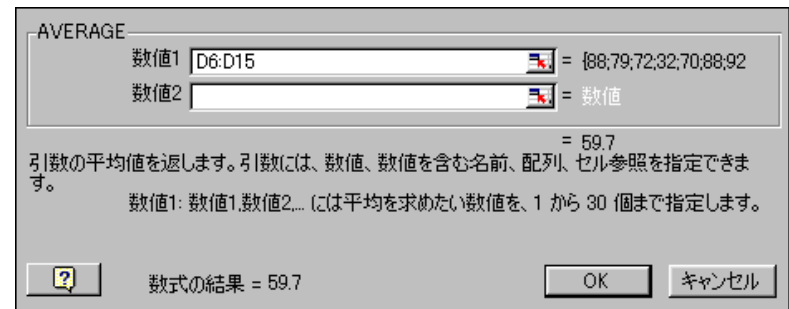
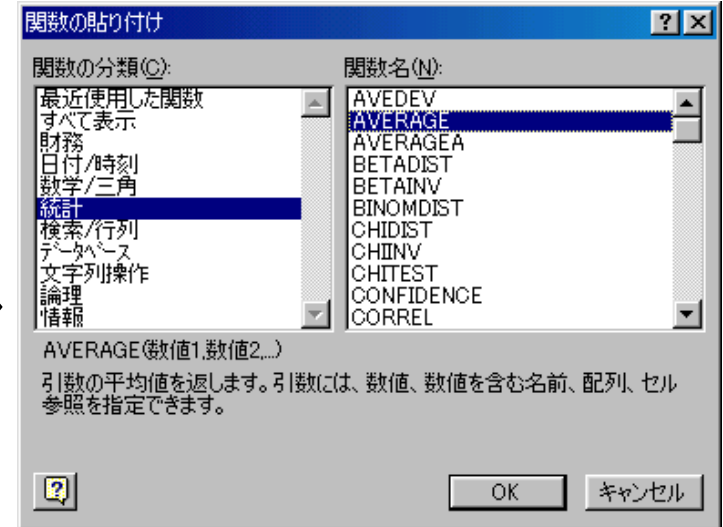
AVERAGE関数 (平均値を求める)

「挿入」「関数」「統計」「AVERAGE」セル範囲選択
「OK」

関数貼り付けボタンをクリック

	A	B	C	D	E	F	G
1		2年1組					
2							
3	出席番号	氏名	性別	英語	数学	国語	合計
4		得点					
5				100	100	100	300
6	1	青木 朝子	女	88	85	80	253
7	2	青山 隆	男	79	74	74	227
8	3	赤木 恵	女	72	78	65	215
9	4	飯田 洋介	男	32	40	35	107
10	5	角田 幸男	男	70	66	78	214
11	6	滝口 薫	女	88	78	84	250
12	7	平野 克	男	92	86	86	264
13	8	三田 良子	女	14	15	23	52
14	9	山本 雄三	男	12	42	32	86
15	10	横田 真奈美	女	50	70	66	186
16							
17		平均点		55.182	58.545	57.545	169.46

表示させたい
セルをクリック



対象となる範囲から、極端なデータを除外した平均値を求める場合はTRIMMEAN関数を使用する。

= TRIMMEAN (配列 (又は範囲), 除外割合)

統計関数 (偏差値)

STDEVP関数 (標準偏差)

「挿入」「関数」「統計」「STDEVP」セル範囲指定
「OK」で標準偏差値を求める

偏差値は

$$= (\text{得点} - \text{全体の平均点}) \div \text{標準偏差} \times 10 + 50$$

$$= (G6-\$G\$17)/\$G\$19*10+50$$

と入力し偏差値を求める

MS Pゴシック 11 B I U									
G19 = =STDEVP(A(G6:G15))									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		2年1組							
2									
3	出席番号	氏名	性別	英語	数学	国語	合計	順位	偏差値
4		得点							
5				100	100	100	300		
6	1	青木 朝子	女	88	85	80	253	2	61.567
7	2	青山 隆	男	79	74	74	227	4	57.967
8	3	赤木 恵	女	72	78	65	215	5	56.306
9	4	飯田 洋介	男	32	40	35	107	8	41.353
10	5	角田 幸男	男	70	66	78	214	6	56.167
11	6	滝口 薫	女	88	78	84	250	3	61.152
12	7	平野 克	男	92	86	86	264	1	63.090
13	8	三田 良子	女	14	15	23	52	10	33.738
14	9	山本 雄三	男	12	42	32	86	9	38.446
15	10	横田 真奈美	女	50	70	66	186	7	52.291
16									
17		平均点		55.182	58.545	57.545	169.46		
18		平均点(四捨五入)		55.2	58.5	57.5	169.5		
19		標準偏差値		29.155	22.168	22.267	72.228		
20									

標準偏差 = STDEVP(G6:G15)

統計関数(順位)

RANK関数(順位)

「挿入」「関数」「統計」「RANK」 対象セル、参照範囲、順序を入力や「OK」

RANK

数値 G6 = 253

範囲 \$G\$6:\$G\$15 = {253;227;215;107;21}

順序 0 = FALSE

引数リスト内での指定した数値の順位を返します。
順序 には数値の範囲を求める方法を表す数値を指定します。

数式の結果 = 2

OK キャンセル

対象セル

= RANK (G6,G6:G15,0)

参照範囲セルを選択

(絶対参照に変更する)

順序 (0または省略で大きい順、0以外の数値では小さい順)

ここに実際の数値が表示される

MAX関数(最大値)

「挿入」「関数」「統計」「MAX」 参照セル範囲を選択 「OK」

= MAX (G6:G15)

論理値や文字列を計算の対象としたい場合(0以下、文字列の有無など)は

MAXA関数を使用

MIN関数(最小値)

「挿入」「関数」「統計」「MIN」 参照セル範囲を選択 「OK」

= MIN (G6:G15)

論理値や文字列を計算の対象としたい場合(1より大きい、文字列の有無など)は

MINA関数を使用

LARGE関数(N番目に大きい値を求める)

「挿入」「関数」「統計」「LARGE」 参照セル範囲を選択、順位を入力 「OK」

= LARGE (G6:G15,n)

N番目に小さい値を求める場合は

SMALL関数を使用

統計関数(個数を数える)

COUNTA関数(セルの個数を求める)

「挿入」「関数」「統計」「COUNTA」参照セル範囲を指定「OK」

= COUNTA(C6:C15)

注:引数として、値、名前、配列、セル参照が指定できます。空白セル以外の全てのデータ型が計算の対象となります。

数値の入力されているセルの個数を求めるときは、

COUNT関数を使用します。

注:数値、Null、論理値、日付、数値を表す文字列が計算の対象となります。

COUNTBLANK関数(空白セルの個数を求める)

「挿入」「関数」「統計」「COUNTBLANK」参照セル範囲を指定「OK」

= COUNTBLANK(C6:C15)

空白文字列「"」も計算対象となります。

COUNTIF関数(条件を満たすセルの個数を求める)

「挿入」「関数」「統計」「COUNTIF」参照セル範囲を指定、検索条件を入力「OK」

COUNTIF

範囲: \$C\$6:\$C\$15

検索条件: "男"

= 5

指定した<範囲>に含まれる空白以外のセルのうち、<検索条件>に一致するセルの個数を返します。

検索条件には計算の対象となるセルを定義する条件を、数値、式、または文字列で指定します。

数式の結果 = 5

OK キャンセル

参照セル範囲

条件入力(文字列の場合は「"」で囲む)

例 60点未満を追試とした場合の人数の計算は

= COUNTIF(C6:C15,"< 60")

統計関数(頻度分布表)

FREQUENCY関数(頻度分布)

指定した範囲の数値の、設定した値ごとの頻度分布を求めます。

表示したいセル範囲を選択します。「挿入」「関数」「統計」「FREQUENCY」データ範囲、区間配列を選択
Ctrl+Shift+Enterで値が表示されます

= FREQUENCY(G6:G15,K9:K15)

確定した後、Ctrl+Shift+Enter

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1		2年1組										
2												
3	出席番号	氏名	性別	英語	数学	国語	合計	順位	偏差値		生徒数	平均
4		得点									全体	10
5					100	100	100	300				男
6	1	青木 朝子	女	88	85	80	253	2	61.567		女	5
7	2	青山 隆	男	79	74	74	227	4	57.967			
8	3	赤木 恵	女	72	78	65	215	5	56.306		得点分布	人数
9	4	飯田 洋介	男	32	40	35	107	8	41.353		0	0
10	5	角田 幸男	男	70	66	78	214	6	56.167		50	0
11	6	滝口 薫	女	88	78	84	250	3	61.152		100	2
12	7	平野 克	男	92	86	86	264	1	63.090		150	1
13	8	三田 良子	女	14	15	23	52	10	33.738		200	1
14	9	山本 雄三	男	12	42	32	86	9	38.446		250	4
15	10	横田 真奈美	女	50	70	66	186	7	52.291		300	2
16												
17		平均点		55.182	58.545	57.545	169.46					

ここに計算結果が表示される

論理、情報関数

論理関数

複数の条件を検査したり、「論理演算」を行なう関数。

論理関数には、この他にFALS()
「常に論理値FALSEを返す」、
TRUE()
「常に論理値TRUEを返す」、
NOT(論理式)
「対象となる論理値の逆を返す」があります。

関数	機能	例
IF	条件を満たす場合と満たさない場合にそれぞれ指定した値を返す	=IF(J7>=240,"A","B")
OR	複数の条件のうちの1つでも満たしているかどうかを調べる	=OR(C2>=2,D2>=3) 2または3の場合
AND	複数の条件を満たしているかどうか調べる	=AND(C2>=2,D2>=3) 2かつ3の場合

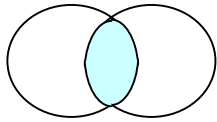
情報関数

セルの状態、セルに入力されたデータの種類の調べる関数。

情報関数には、CELL(検査の種類、対象範囲)、COUNTBLANK(範囲)、ERROR.TYPE(エラー値)、INFO(検査の種類)、N(値)、NA()、TYPE(データタイプ)などがあります。

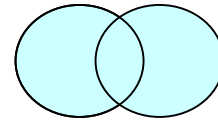
関数	機能	例
IS関数	指定したセルの値や参照のタイプを調べる	=ISBLANK(D3) D3が空白の場合
PHONETIC	指定したセルに入力されている文字列のふりがなを表示する	=PHONETIC(D3) ふりがな

ANDとOR関数



AND条件

= AND (引数1,引数2,...)



OR条件

= OR (引数1,引数2,...)

Excel Formula Bar: =IF(AND(D4>=80,E4>=80,F4>=80),1,0)								
B	C	D	E	F	G	H	I	
E1組								
名	性別	英語	数学	国語	合計	順位	3科目全部が80点以上	3科目中1科目が80点以上
明子	女	88	85	80	253	2	1	
彦	男	79	74	74	227	4	0	

3科目全部が80点以上

= IF (AND(D4>=80,E4>=80,F4>=80),1,0)

Excel Formula Bar: =IF(OR(D4>=80,E4>=80,F4>=80),1,0)									
	C	D	E	F	G	H	I	J	
組									
名	性別	英語	数学	国語	合計	順位	3科目全部が80点以上	3科目のうち1科目が80点以上	
子	女	88	85	80	253	2	1	1	
彦	男	79	74	74	227	4	0	0	

3科目中1科目でも80点以上

= IF(OR (D4>=80,E4>=80,F4>=80),1,0)

ANDとORはIF関数と一緒に用いられる

IF関数

関数一覧表示ボタン

偽の場合の所に、もう1つのIF関数を入れる

= IF (論理式, 真の場合, 偽の場合)

=IF(J7>=240,"A","B")

MS Pゴシック 11 B I U

K7 = =IF(J7>240,"A",IF(J7>=240,"B","C"))

IF

論理式 J7>240 = TRUE

真の場合 "A" = "A"

偽の場合 IF(J7>=240,"B","C") = "B"

= "A"

論理式の結果に応じて、指定された値を返します。

論理式 には結果が TRUE または FALSE になる値、もしくは数式を指定します。

数式の結果 = A

OK キャンセル

					G	H	I	J	K
					成績	国語	成績	合計	総合成績
						100		300	
11	5	角田 幸男	男	70	B				
12	6	滝口 薫	女	88	A	80	B	253	A
13	7	平野 克	男	92	A	74	B	227	B
14	8	三田 良子	女	14	C	65	B	215	B
15	9	山本 雄三	男	12	C	35	B	107	C
16	10	横田 真奈	女	50	C				
17									

複合の場合

=IF(J7>240,"A",IF(J7<=240,"B","C"))

「挿入」「関数」「論理」「IF」論理式、真の場合を入力し、偽の場合のところで を押して関数一覧から「その他の関数」「論理」「IF」を選択し 論理式、真の場合、偽の場合を入力する。

情報関数

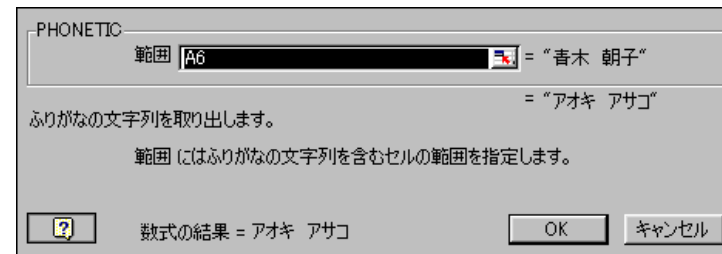
PHONETIC関数

セルに自動的にふりがなをふる。

セルを選択し、「挿入」「関数」「情報」「PHONETIC」
漢字の入力されているセルを選択「OK」

= PHONETIC(A6)

	A	B	C	D
1				
2				
3	氏名	ふりがな	性別	出席
4	得点			
5				
6	青木 朝子	アオキ アサコ	女	
7	赤木 恵	アカギ メグ	女	
8	滝口 薫	タキグチ カオル	女	
9	三田 良子	ミタ ヨシコ	女	
10	横田 真奈美	ヨコタ マナミ	女	



ふりがなを訂正するには

漢字の入力されているセルを選択「書式」「ふりがな」「編集」ふりがなが選択される「ふりがなリストから選択」表示されたリストから正しいふりがなを選択する。

IS関数

指定したセルの値や参照のタイプを調べる。

IS関数には、**ISBLANK**（指定したセルが空白のとき）、**ISERROR**（指定したセルがエラーのとき）、**ISEVEN**（指定したセルが偶数のとき）、**ISODD**（指定した数値が奇数のとき）、**ISLOGICAL**（指定した対象が論理値のとき）、**ISTEXT**（指定した対象が文字列のとき）、**ISNONTTEXT**（指定した対象が文字列でないとき）、**ISNUMBER**（指定した対象が数値のとき）、**ISREF**（指定した対象がセル範囲のとき）、**ISNA**(指定したセルが「#N/A」のとき)、などがある。

IS関数はIF関数など他の関数との複合条件設定に使われる場合が多い。

データを照合する関数

VLOOKUP関数

一覧表に基づいた名簿の自動入力ができます。

	A	B	C	D	E	F	G
23	出席番号	氏名			出席番号	氏名	
24	1	青木 朝子			1	青木 朝子	
25	5	角田 幸男			2	青山 隆	
26	6	滝口 薫			3	赤木 恵	
27	8	=VLOOKUP(A27,生徒番号表,2,0)			4	飯田 洋介	
28	9				5	角田 幸男	
29					6	滝口 薫	
30					7	平野 克	
31					8	三田 良子	
32					9	山本 雄三	
33					10	横田 真奈美	
34							

名前ボックス

	A	B	C
3	出席番号	氏名	性別
4	1	青木 朝子	女
5	2	青山 隆	男
6	3	赤木 恵	女
7	4	飯田 洋介	男

生徒番号表を別に作成しておき「名前ボックス」に登録します。出席番号を入力すると、氏名が自動入力できます。

「セルを選択」し、「挿入」「関数」「検索/行列」「VLOOKUP」を選択、数式パレットが表示される。

検索値 入力するセル

範囲 作成した生徒番号表名を、「挿入」「名前」生徒番号表を選択

列番号 表示させたい列

検索の型 0とするか、左に番号がないとエラー表示をさせないためには式の先頭に

=IF(A29="","",VLOOKUP(···))
とすると、欄になにも無いときは、何も表示しなくできます。

VLOOKUP

検索値 119 = 0

範囲 生徒番号表 = "出席番号","氏名"

列番号 2 = 2

検索の型 0 = FALSE

テーブルの左端列を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。
検索の型には<検索値>と完全に一致する値だけを検索するか、その近似値を含めて検索するかを、論理値で指定します。

数式の結果 =

OK キャンセル

入力したいセル

生徒番号表（あらかじめ作成し名前を登録しておく）

列番号（表示させたい方の列）

0

データを結合する文字列関数

別セルにあるデータをつなげる「&」

別々のセルにあるデータを、一つのセルにつなげて表示したい場合は、「&」を使う。

例えば、F3セルに「=D3&E3」という式を立て、D3セルの県名とE3セルの住所データをつなげて一つのセルに表示している。

	D	E	F
1			
2	県	住所	住所
3	神奈川県	大和市福田X-X-X	神奈川県大和市福田X-X-X
4	東京都	町田市小山田桜台X-X-X	東京都町田市小山田桜台X-X-X
5	埼玉県	朝霞市洪崎X-X-X	埼玉県朝霞市洪崎X-X-X
6	東京都	豊島区東池袋X-X-X	東京都豊島区東池袋X-X-X
7	神奈川県	茅ヶ崎市東海岸北X-X-X	神奈川県茅ヶ崎市東海岸北X-X-X
8	千葉県	我孫子市白山X-X-X	千葉県我孫子市白山X-X-X

=D3&E3

F3セルに「=D3&E3」という式を立て、D3セルの県名とE3セルの住所データをつなげて一つのセルに表示している

	A	B	C	D	E	F
1						
2		請求書				No.1234
3						2002/1/24
4		PC21 商事		御中		
5						
6		品番	品名	価格	数量	小計
7		U255	トナー	¥3,550	1	¥3,550
8		A355	A3用紙	¥400	3	¥1,200
9		B455	B4用紙	¥380	3	¥1,140
10		A455	A4用紙	¥360	6	¥2,160
11				合計		¥8,050
12				消費税		¥402
13				総計		¥8,452
14						
15				ご請求額は8452円です		
16						
17						

= "ご請求額は"&F13&"円です"

セルに入力したデータ同士だけでなく、セル内のデータと、文字列をつなぐこともできる。F13セルの数値を、「ご請求額は」と「円です」という文字列とつないで表示している。ポイントは、文字列を「"」（ダブルクォーテーション）で挟むこと。こうした上で、セル番地と「&」でつなげばよい。

文字列を「"」（ダブルクォーテーション）で挟んだ上で、セル番地と「&」でつなげば、一つのセルにつなげて表示できる

日付 / 時刻関数

関数	機能	例
TODAY	現在の日付を求める	= TODAY()
NOW	現在の日付と時刻を求める	= NOW()
YEAR	日付データから、「年」の数値を抽出する	= YEAR(シリアル値) 2003年2月5日の年のみ抽出
MONTH	日付データから、「月」の数値を抽出する	= MONTH(シリアル値) 12月 25日の12月を抽出
DAY	日付データから、「日」の数値を抽出する	= DAY(シリアル値) 12 月25日の25日を抽出
WEEKDAY	数値データから、曜日を求める	= WEEKDAY(“2003/12/25”, aaaa) 木曜日と表示される
DATE	数値データを日付に変換する	= DATE(年,月,日) 別々のセルにある数値を1つ のセルに年月日として表示
DATEVALUE	日付文字列をシリアル値に変換する	= DATEVALUE(“2003/4/1”)
HOUR	時刻データから「時」「分」「秒」の数値を抜き出す	= HOUR(シリアル値)
NETWORKDAYS	平日(土曜、日曜、祭日を除く)の稼働日数を求める	= NETWORKDAYS(開始日, 終了日,祭日)
DATEDIF	指定した日付間の日数や月数、年数を求める	= DATEDIF(開始日,終了日, 単位)

記号	機能
yyyy	西暦年を4桁で表示(1900 ~ 2078)
g	元号(M,T,S,H)で表示
gg	元号(明、大、昭、平成)
ggg	元号(明治、大正、昭和、平 成)と表示
e, ee	eは1桁eeは2桁、日付の年 を和暦で表示
m, mm	mは1桁1~12月、mmは2 桁01~12月
mmm	英語の月(Jan ~ Dec)
mmmm	英語の月(January)
d, dd	日付の日を1桁、2桁で表示
ddd, dddd	英語の曜日(Sun)、(Sunday) で表示
aaa, aaaa	曜日(日)、(日曜日)を表示
h, hh	時刻の時を1桁、2桁で表示
m, mm	時刻の分を1桁、2桁で表示
s, ss	時刻の秒を1桁、2桁で表示

日付を表す文字列は「 ” 」で囲みます

期間内の年月を求める

DATEDIF関数

単位	戻り値
“Y”	期間内の満年数
“M”	期間内の満月数
“D”	期間内の満日数
“YM”	1年未満の月数
“YD”	1年未満の日数
“MD”	1ヶ月未満の日数

在校年数 = DATEDIF(入学年月日,現在日付, “ Y ”)

在校月数 = DATEDIF(入学年月日,現在日付, “ M ”)

不足月数 = 12 - DATEDIF(入学年月日,現在日付, “ YM ”)

現在年齢 = DATEDIF(生年月日,現在日付, “ Y ”)
と入力する。

	A	B	C	D	E
1		基準日	2003/8/29		
2		氏名	生年月日	現在年齢	
3	1	山田 花子	1920/1/18	83	
4	2	花田 雅夫	1925/1/3	=DATEDIF(C5,C1,“Y”)	
5	3	大谷 忠雄	昭和15年5月5日		
6	4	山岡 美智子			
7	5	澤田 健二			
8					

= TODAY()

セルの日付の表示を西暦で設定すると、和暦で入力しても西暦に直して表示される

明治、大正、昭和、平成と和暦しかわからないとき年齢を計算するのに役立ちます。